

**【栃木県】**  
**令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業**  
**（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	栃木県
担当課名	教育委員会事務局健康体育課
電話番号	028-623-3415

# 1. 自治体の基本情報

## 基本情報

人口	1,895,031人	部活動数	1,788部活
市区町村数	14市11町	都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
公立中学校数	152校	都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み
公立中学校生徒数	48,500人		

実証事業に参加した市区町村数	5市
実証事業に参加した拠点校数（域内の合計）	27校
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数（域内の合計）	61部活

## 地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

○少子化の影響等により運動部員数が減少し、単独でチームを組めない部活動が増え、学校単位での活動が困難になってきている。そのため、近隣の学校や地域で協力しながら生徒のスポーツ活動の機会を確保する体制の整備が必要である。特に、地域クラブ活動の運営にあたる運営団体の確保や指導者の確保が大きな課題である。

○部活動は勤務時間外に行われることが多く、教員が部活動指導を行いながら休日を含めた在校等時間をなくすことは難しい現状がある。教員の負担軽減の観点も踏まえ、子どもたちのスポーツ活動を地域が担える体制を構築し、生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会を確保することが必要である。

○これまでの学校部活動を通じた教育的意義を地域の活動においても継承・発展させていくには、学校・行政・運営団体の三者の連携が必要である。

## 栃木県内中学校部活動加入率の推移

(%)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
運動部	71.9	70.8	70.1	69.7	68.6	68.5	67.4	65.7
文化部	20.3	20.0	20.5	20.4	20.7	20.6	20.4	21.0
全体	92.2	90.8	90.6	90.1	89.3	89.1	87.8	86.7

運動部に関する調査（栃木県教育委員会）

## 県中体連主催大会への合同チーム参加数及び学校数推移

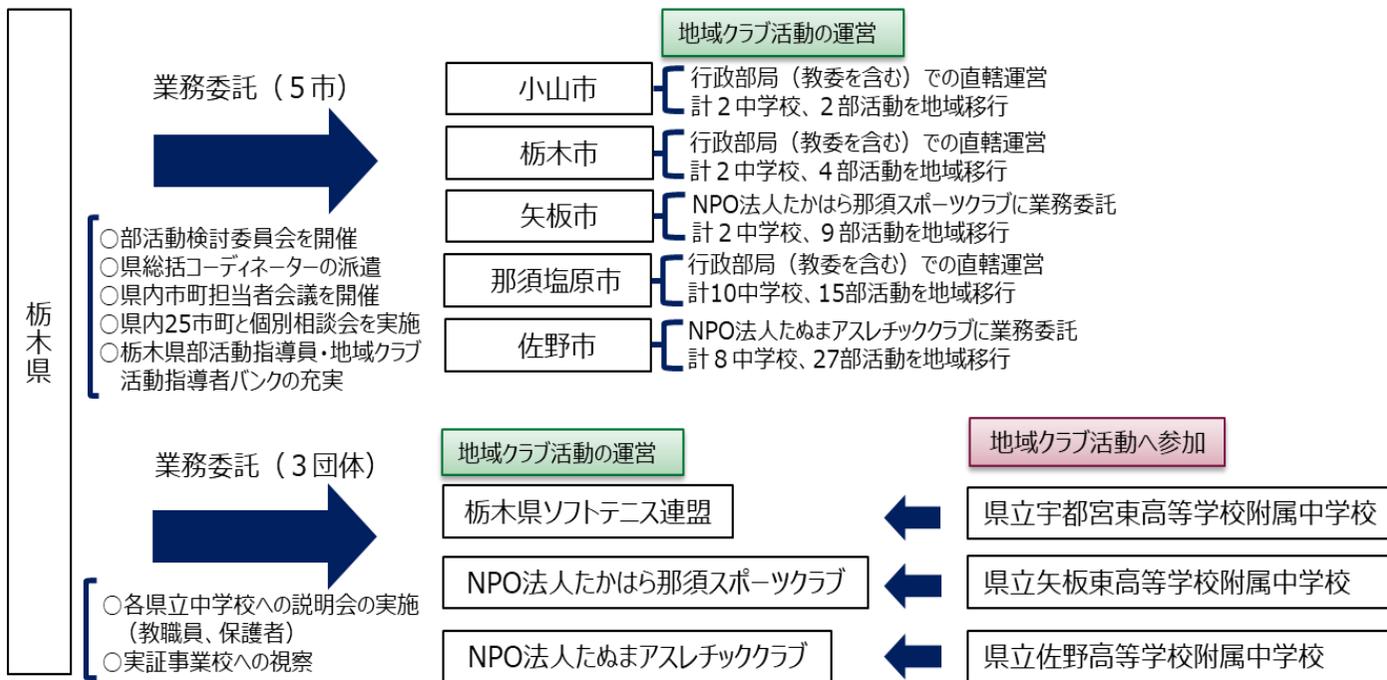
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
合同チーム数	27	38	31	48	11	44	45	69
学校数	56	81	70	102	24	95	98	154

（栃木県中学校体育連盟提供）

## 2. 実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ▼事業実施体制図



#### ▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会（健康体育課）**
  - ・事業全体の調整
  - ・実証事業の支援、助言
  - ・栃木県部活動改革検討委員会WGの設置
  - ・栃木県部活動改革検討委員会の開催
- **首長部局（スポーツ振興課）**
  - ・栃木県部活動改革検討委員会WGに参加
  - ・今後の部活動改革や地域移行についての在り方等について検討
  - ・運営団体の整備充実
  - ・地域クラブ活動指導者の養成、確保
  - ・県スポーツ協会や競技団体等の関係団体に対する情報提供
  - ・市町スポーツ所管課との連携

### 年間の事業スケジュール

- |  |   |
|--|---|
| 5月 各市町地域移行進捗状況調査<br>県総括コーディネーター派遣（～1月）   | 10月 第2回栃木県部活動改革検討委員会<br><a href="#">県立中学校地域クラブ活動の開始</a> |
| 6月 第1回栃木県部活動改革検討委員会  | 11月 地域クラブ活動 現地視察(県立中、佐野市)                               |
| 7月 部活動地域移行 <a href="#">市町担当者会議</a>   | 12月 実証事業アンケートの実施<br>(学校長、教員、生徒、保護者、地域クラブ活動指導者)          |
| 8月 運動部活動指導者研修会(地域クラブ活動指導者参加)   | 2月 事業完了報告書・成果報告書等の作成                                    |
| 9月 部活動の地域連携・地域移行に係る <a href="#">個別相談会</a><br><a href="#">栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク設置</a> |   |

## 2. 実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

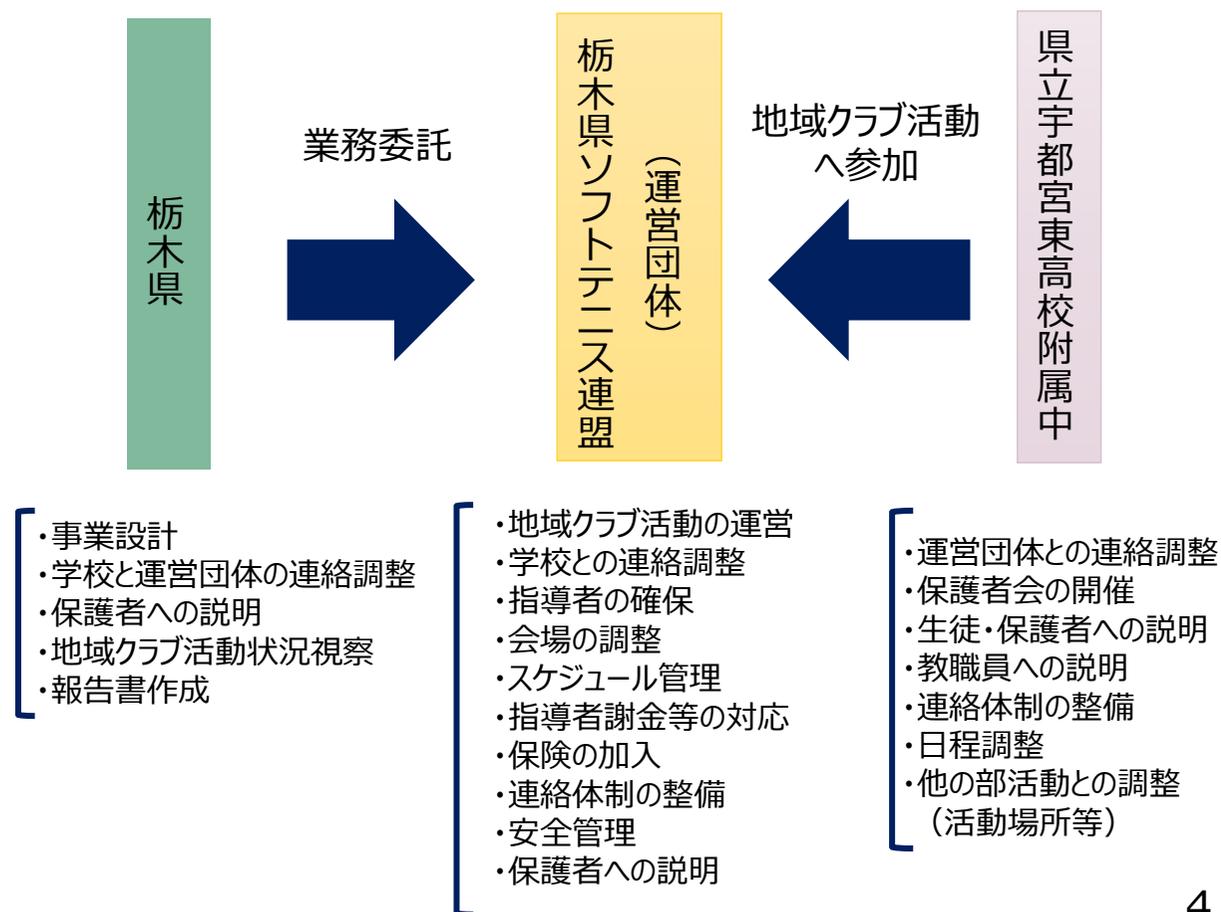
拠点校数	県立中学校 3校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	男子ソフトテニス、サッカー、男子バスケットボール、女子硬式テニス
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	4部活		

### 主な取組例①

#### ▼活動概要

拠点校名	県立宇都宮東高等学校附属中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1部活
地域クラブ活動で実施した種目	男子ソフトテニス
運営主体名	栃木県ソフトテニス連盟
運営類型	その他 (その他の類型：競技団体運営型)
1か月あたりの平均的な活動回数	ソフトテニス：月3回程度
指導者の主な属性	栃木県ソフトテニス連盟所属
活動場所	学校施設（テニスコート）
主な移動手段	自転車、電車等
1人あたりの参加会費等（年額）	ソフトテニス：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



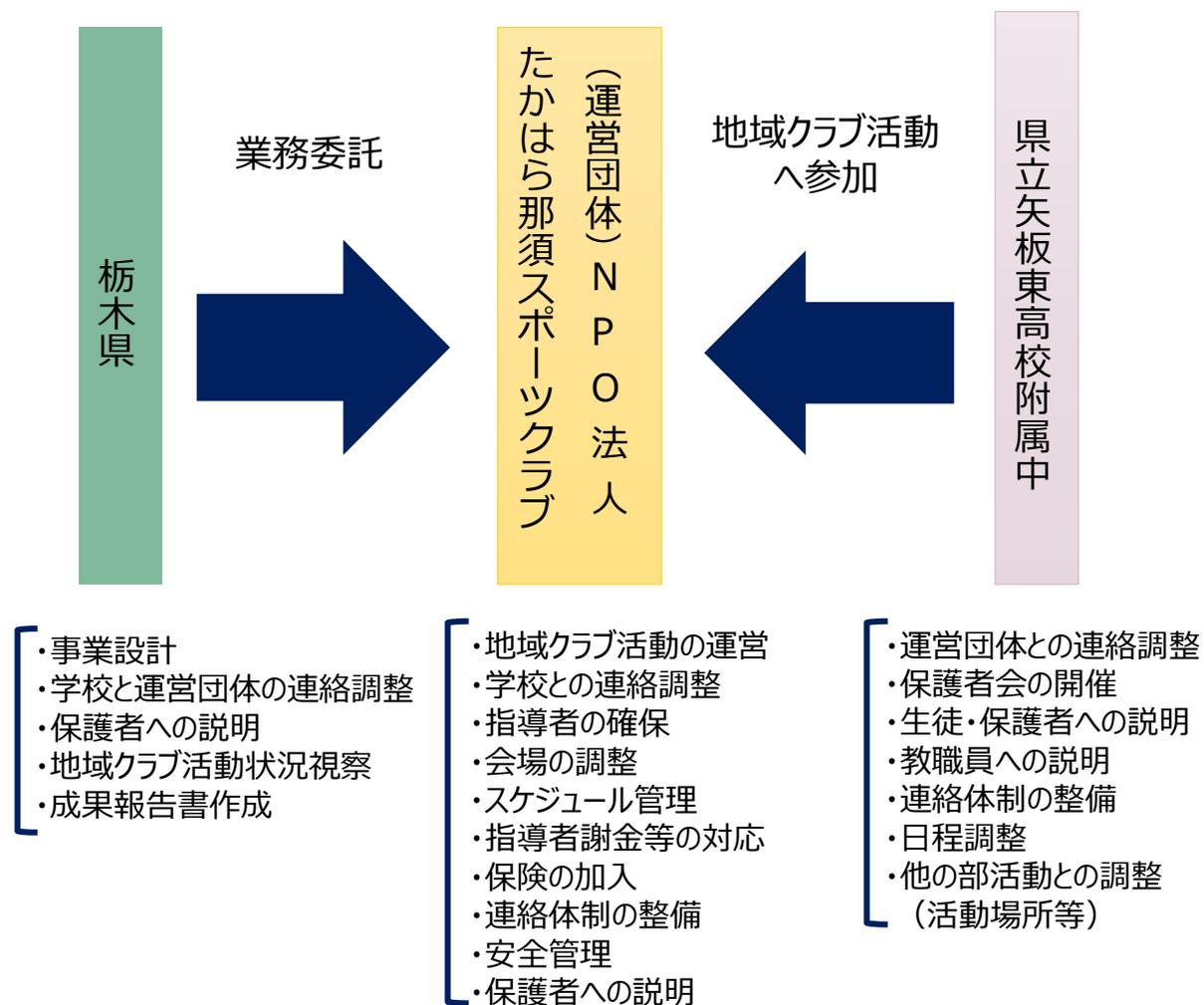
## 2. 実証内容と成果

### 主な取組例②

#### ▼活動概要

拠点校名	県立矢板東高等学校附属中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1部活
地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営主体名	NPO法人たかはら那須スポーツクラブ
運営類型	地域スポーツ団体等運営型 (総合型地域スポーツクラブ運営型)
1か月あたりの平均的な活動回数	サッカー：月3回程度
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ所属 <b>教員の兼職兼業</b>
活動場所	学校施設(校庭) 総合型地域スポーツクラブサッカー場
主な移動手段	自転車、電車等
1人あたりの参加会費等(年額)	サッカー：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ▼運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



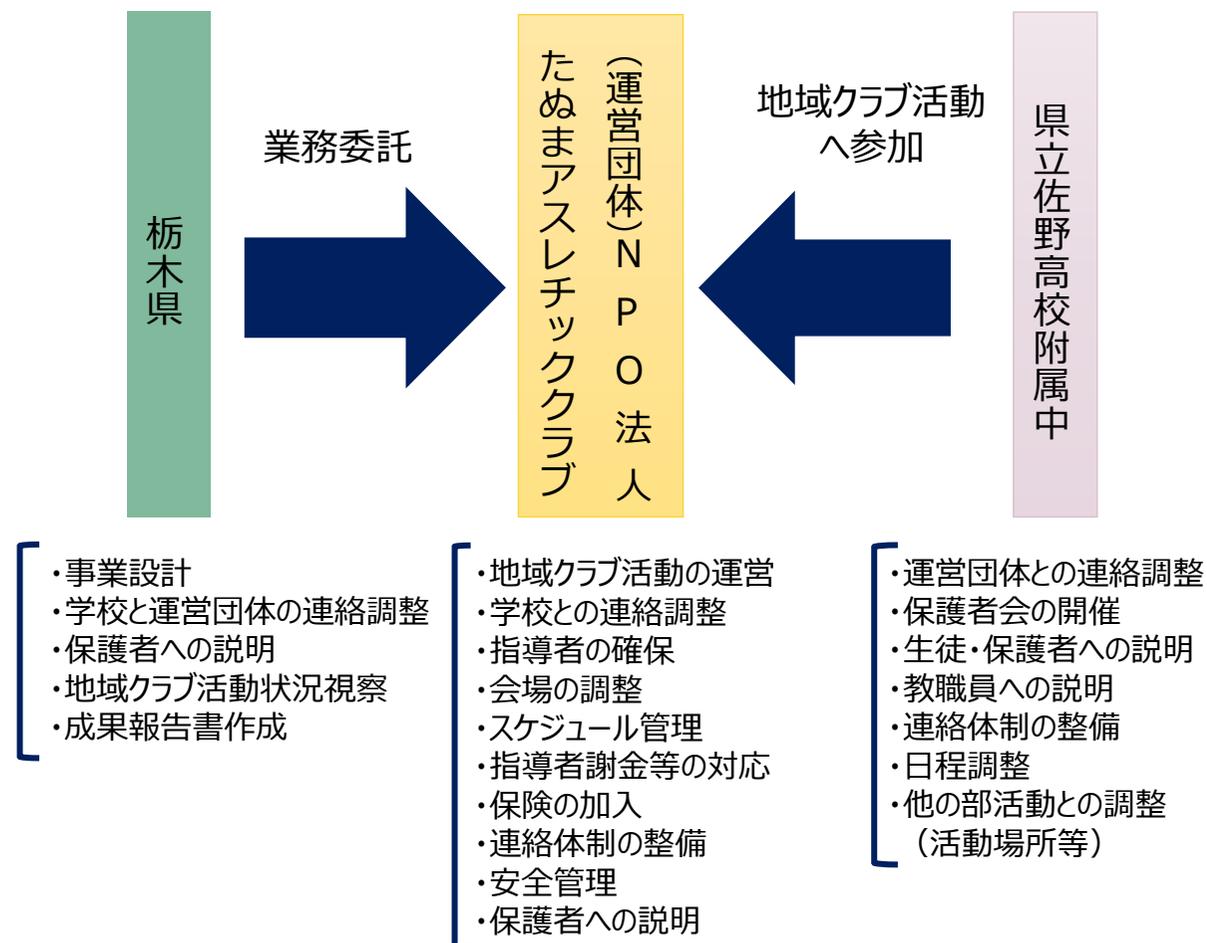
## 2. 実証内容と成果

### 主な取組例③

#### ▼活動概要

拠点校名	県立佐野高等学校附属中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	2部活
地域クラブ活動で実施した種目	男子バスケットボール、女子硬式テニス
運営主体名	NPO法人ためまアスレチッククラブ
運営類型	地域スポーツ団体等運営型 (総合型地域スポーツクラブ運営型)
1か月あたりの平均的な活動回数	男子バスケットボール：月3回程度 女子硬式テニス：月3回程度
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ所属 (佐野市バスケットボール協会からの推薦) 部活動指導員
活動場所	学校施設(体育館、テニスコート)等
主な移動手段	自転車、電車等
1人あたりの参加会費等(年額)	男子バスケットボール：0円 女子硬式テニス：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ▼運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

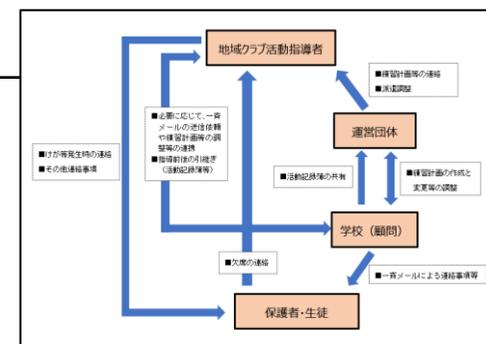
ク：その他の取組

### 取組内容

#### ▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

#### 取組事項

- ・各市町における部活動の地域移行を丁寧に進めていくため、市町担当者を対象とした会議や、市町との個別相談会を開催。
- ・各市町等に対する県の総括コーディネーター派遣による、地域移行に係る情報提供及び指導・助言の実施。
- ・県立中学校の地域クラブ活動の実施に当たって、安全面・緊急時の対応等に関するQA及び連絡体制図を作成。



【連絡体制図】

#### 取組の成果

- ・**個別相談会**の開催件数 全25市町
- ・**総括コーディネーターの派遣**件数 14回  
派遣先からは、全国の取組状況を踏まえた情報や運営団体の視点から関係者間の連携などについて助言を得られたことで、今後の取組の参考になった等の意見があった。
- ・安全面・緊急時の対応等に関する**QA**や**連絡体制図**を作成することにより、地域指導者や教員、保護者等との連携が円滑になった。県立中学校実証事業のアンケート結果では、「連携が図られていたか」という問いに対し、教員、地域指導者ともに**肯定的な回答**となった。

#### 県立中学校 教員



#### 地域指導者



#### 特に工夫した事項

- ・総括コーディネーターに栃木県部活動改革検討委員会の委員を兼任してもらうことで、本県の状況や方向性等をよく把握した上で、情報提供や指導・助言ができるようにした。また、各市町が、総括コーディネーターに相談する機会を得やすくするため、県が開催した個別相談会の場に総括コーディネーターを派遣できるようにした。
- ・各校において、QAや連絡体制図を、学校、運営団体、地域指導等の関係者で協議して作成することで、関係者の意思の疎通が図られるとともに、連絡体制の整備が円滑に行われた。

#### 今後の課題と対応方針

- (課題) 新たにコーディネーターを配置する市町が増えており、市町のコーディネーターへの支援が必要。
- (対応方針) 総括コーディネーター派遣事業の充実。
- (課題) 地域クラブ活動への参画が期待される総合型地域スポーツクラブや文化芸術団体等の団体数が十分でない状況にある。
- (対応方針) 行政が支援をしながら、運営団体の整備充実を進める必要がある。



## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保証・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組

### 取組内容

#### ▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

- ・スポーツ少年団やスポーツ推進委員の代表者を新たに委員に加え、栃木県部活動検討委員会を開催。
- ・県スポーツ協会やスポーツ部局と連携し、競技団体や総合型地域スポーツクラブ関係団体等に対し、県担当者による部活動地域移行の説明を実施。
- ・部活動地域移行市町担当者会議を開催。
- ・県・市町教育委員会教育長、教育委員及び行政担当者を対象とした研修会において、部活動の地域移行に係る内容の講演を実施。(地域スポーツクラブ活動アドバイザー派遣制度活用)

##### 取組の成果

- ・県スポーツ協会と連携をし、競技団体、総合型地域スポーツクラブ等と地域移行に係る情報の共有を図る機会を設けることで、地域クラブ活動環境の整備に向けた連携体制の構築につながり、実証事業に対して、協力的な団体が増え、栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンクへの登録者も増加した。
- ・**部活動地域移行市町担当者会議**を開催し、**実証事業の成果や課題について周知**するとともに、各市町の取組状況について、**各教育事務所や市町教育委員会の担当者間で情報交換**を行い、連携体制の構築につながった。



【部活動地域移行市町担当者会議】

##### 特に工夫した事項

- ・部活動地域移行に係る研修会においては、**地域スポーツクラブ活動アドバイザー**から、部活動地域移行の背景、地域移行の捉え方、新潟県の状況、長岡市の取組についての講演をいただき、県・市町教育委員会教育長、教育委員及び行政担当者が部活動地域移行の背景や課題などを理解し、今後の取組に向けて**共通認識**を図ることができた。



【地域スポーツクラブ活動アドバイザーの講演】

##### 今後の課題と対応方針

- (課題) 部活動の地域移行の推進に向けて、運営団体や指導者の確保が重要であり、スポーツ・体育協会をはじめ、総合型地域スポーツクラブや競技団体等との連携体制の構築が更に必要である。また、市町をまたいだ広域的な取組を進めるため、教育事務所と市町の連携が図れる体制の構築も必要である。
- (対応方針) 関係団体との連携を図るため、会議等における参加対象者を検討したり、会議やグループ協議の内容について工夫したりする。

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保証・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

#### 取組事項

・実証事業を行った中学校・義務教育学校（後期課程）の全保護者、生徒、校長、教員、地域指導者を対象に「**休日の地域クラブ活動に関するアンケート**」を実施し、地域クラブ活動の維持・運営に必要なコスト、受益者負担等検証、エビデンスとしての整理を行った。  
 ・休日の学校部活動の地域連携、地域クラブ活動への移行に向けた**普及・啓発資料チラシ**を作成。

#### 取組の成果

・アンケートは保護者740名、生徒2179名、校長19名、教員64名、地域指導者33名から回答。  
 ・参加費用等が発生した場合、約半数の生徒や保護者は参加を迷っており、**生徒の約35%は「参加したくない」と**考えている。保護者については、約34%が「とても参加させたい」、「参加させたい」と回答をしている一方で、**約17%は「全く参加させたくない」、「参加させたくない」と**回答していることから今後も丁寧な説明が必要になる。  
 また、地域移行した場合の妥当額については、**3千円未満**が妥当であるという回答が多かった。

#### 特に工夫した事項

・既存の運動部活動における活動経費の調査を実施した。今後、会費の適切な設定や支援方策の検討材料とし、持続的な地域クラブ活動を目指した仕組みづくりにつなげていく。

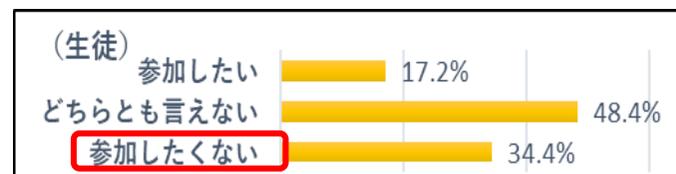
※18,000円/年額（R5 運動部活動に関する調査）

#### 今後の課題と対応方針

（課題）現在は、国庫事業を活用し、受益者負担がない状況で実証事業を進めているが、今後は、持続的に活動することを前提とした仕組みづくりが必要となる。**参加費用負担の理解促進**や、可能な限り**低廉な参加費**により活動できる環境の整備が求められている。

（対応方針）**チラシ**や**メディア**を活用した関係者への周知に努める。県立学校施設を活用した地域クラブ活動における施設使用料等の在り方について検討を進める。

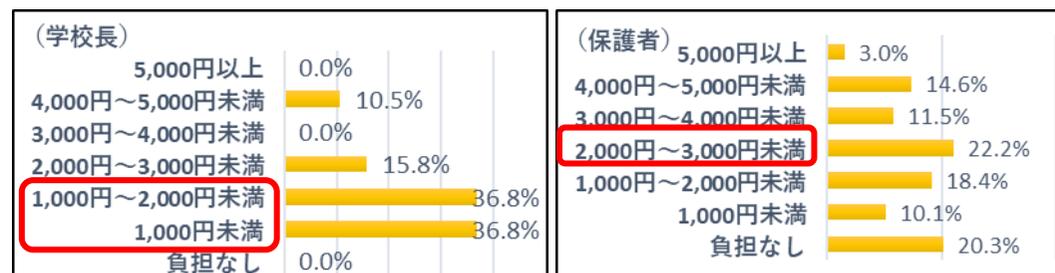
#### 月謝を支払う場合の休日の地域クラブ活動への参加について



#### 地域クラブ活動に参加する際に保護者負担があっても参加させたいか。



#### 地域クラブ活動の保護者が負担する妥当額（月謝）はいくらか。



## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保証・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
**キ：学校施設の活用等**  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

#### 取組事項

- ・県立学校施設での地域クラブ活動の実施
- ・実証事業校アンケートの実施
- ・県立学校施設等を活用した地域クラブ活動における施設管理や利用のルール、施設使用料の在り方について、施設課を含む関係課と現状把握をし、今後の取組について検討

#### 取組の成果

- ・普段通学している学校施設での活動であったため、施設料の負担なく、移動や送迎等の負担も少なく活動することができた。
- ・施設の管理については、実証事業校のアンケートから、施設の鍵の施錠を含め、地域指導者や教員から課題としてあげられ、実態の把握につながった。
- ・AEDの設置場所が校舎内の場合があり、屋外で地域クラブ活動をする種目においては、緊急時には校舎内に入る必要があり、校舎内の鍵の管理についても学校と運営団体で調整が必要になるという実態を把握できた。

#### 特に工夫した事項

- ・県立中学校での地域クラブ活動の実証事業を開始する前に、高等学校の教員にも事業について把握してもらい、鍵の施錠や緊急時の対応等については、学校で対応していただけるよう協力体制を整えた。

#### 今後の課題と対応方針

- (課題)** 県立中学校においては、休日に高等学校が部活動で活動しているため、学校内に教員がいる場合が多いが、今後平日も含め、多くの部活動が地域移行した場合の鍵の施錠等、施設管理の対応について、検討が必要。
- (対応方針)** AEDの屋外への移設工事やスマートロックの設置、校舎内で地域クラブ活動を実施する場所のみ警備を解除できる等のセキュリティ整備の工事等の検討を進め、教員に頼らず、運営団体による持続可能な地域クラブ活動となるよう、環境整備に努める。

#### 休日の地域クラブ活動を実践しての課題

(地域指導者)



(教員)



## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

「休日の学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行」普及・啓発資料

## 休日の中学校の部活動を地域で実施

### — 学校部活動から地域クラブ活動へ —

生涯にわたり、子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、令和5(2023)年度から、地域の実情に即して休日の公立中学校の部活動を段階的に地域に移行します。

- ▶ 学校部活動（休日）から地域クラブ活動への移行に向けた環境整備を推進
- ▶ 地域クラブへの移行が困難な場合には、合同部活動の導入などの地域連携を推進



#### なぜ学校部活動の地域移行・地域連携をするの？

- 少子化の影響で部員が減り、チームが編成できない場合があります。
- 通学している学校に自分のやりたい部活動が無い場合があります。
- 時間外勤務などの教員の負担を軽減する必要があります。
- 部活動に対する生徒のニーズが多様化しています。

【ニーズの例】 「楽しみたい」 「うまくなりたい」  
 「自分のペースで活動したい」 「大会で結果を残したい」  
 「スポーツも趣味もやりたい」 「将来はプロになりたい」



子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に  
継続して親しむことができる機会を確保する必要



#### 学校部活動の地域移行のメリットは？

- 地域指導者から専門的な指導が受けられます。
- 複数のスポーツ・文化芸術活動に参加することが可能になります。
- 地域の多様な年代の方々との交流が増えます。
- 中学校3年間を通して、継続した活動をすることができます。
- 自分の目的に合った活動の選択肢が増えます。

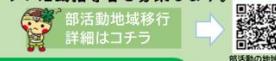
【平日と休日の活動の例】 ① 平日：運動部 休日：地域クラブ  
 ② 平日：文化部 休日：地域クラブ  
 ③ 平日：休み（趣味） 休日：地域クラブ  
 ④ 平日：運動部 休日：休み（学習）

【普及啓発チラシ】



## 栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク登録者募集

栃木県教育委員会では、部活動の地域連携や地域移行を推進するため、「栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク」を設置し、部活動指導員・地域クラブ活動指導者を募集します。



#### 栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンクとは

県内の中学校及び県立学校において、部活動指導員として部活動の指導を行っていただける方や、学校部活動を地域移行した「地域クラブ」で指導を行っていただける方に「栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク」に登録していただき、部活動指導員や地域クラブ活動指導者の配置を検討する市町教育委員会や県立学校、地域クラブに情報提供するものです。



※学校や市町教育委員会と連携して活動する「地域クラブ」



#### 登録申請方法（栃木県電子申請システム）

Step 1

・右記の二次元バーコードを読み取る。

※下記URLからも登録申請可能です。

[https://apply.e-tumo.jp/pref-tochigi-u/offer/offerList\\_detail?tempSeq=5372](https://apply.e-tumo.jp/pref-tochigi-u/offer/offerList_detail?tempSeq=5372)



Step 2

・必要事項を入力し、登録申請。

※資格要件については裏面参照。

Step 3

・登録申請完了！

※県教育委員会は受理した申請内容をもとに審査を実施し、審査結果を2週間以内に通知します。

【問合せ先】

栃木県教育委員会事務局 健康体育課 TEL:028-623-3415  
 生涯学習課 TEL:028-623-3404

栃木県部活動指導員・地域クラブ活動  
指導者バンクに関する詳細ページ



【指導者バンク募集チラシ】

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（活動写真）



【ソフトテニス：打ち方の指導】



【ソフトテニス：活動の振り返り】



【サッカー：地域クラブ活動指導者も加わりミニゲーム】



【サッカー：活動の振り返り】

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（活動写真）



【バスケットボール：ボールの受け方の指導】



【バスケットボール：活動の振り返り】



【硬式テニス：打ち方の指導】



【硬式テニス：活動の振り返り】

## 2. 実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



- 庁内部活動改革検討委員会ワーキンググループを設置し、本県の部活動改革や県立中学校の部活動の地域移行の方向性、地域移行に向けた市町への支援の在り方に関して、関係課と協議を進めた。
- 県教委に栃木県部活動改革検討委員会を設置し、部活動の現状把握・問題点の分析や、地域部活動推進事業の成果・課題の検証を行うとともに、将来にわたり生徒にとって望ましい部活動の環境の構築や、学校の働き方改革を考慮した更なる部活動改革の推進に向けて協議を進めた。
- 「とちぎ部活動移行プラン」策定
  - ・休日における学校部活動の地域移行を進めるための計画を示し、各学校へ周知。
- 次年度の県立中学校の地域クラブ活動実証事業実施に向け、運営団体、学校と連絡調整

- 県立中学校地域クラブ活動実施に向けての流れ
  - ① 部活動地域移行の理解促進のため、県教委が普及啓発チラシを発行し、各学校へ周知
  - ② 県立中学校拠点校との打ち合わせ・実態把握
  - ③ 運営団体との打ち合わせ・実態把握
  - ④ 県教委、学校、運営団体3者打ち合わせ
  - ⑤ 実証事業に向け、県教委から学校職員への事業説明や協力依頼、運営団体から運営方針の説明、地域クラブ活動指導者と部活動顧問との打ち合わせ（連携手段、指導方針、スケジュール等の調整等）
  - ⑥ 保護者への説明会、参加同意書提出
  - ⑦ 運営団体による保険加入
  - ⑧ 地域クラブ活動開始
  - ⑨ 県教委による地域クラブ活動視察
  - ⑩ 実証事業校アンケートの実施

- 学校や運営団体と引き続き連携しながら、実証事業に取り組んでいく。令和6年度以降は、令和5年度の実証事業を踏まえ、対象となる部活動を拡充
- 休日だけでなく、平日の活動や受益者負担についても引き続き検討
- 少子化の影響から、県立中学校単独での活動が難しい種目については、県立中学校と市立中学校が連携した地域クラブ活動の実施について検討を進めていき、生徒のスポーツ活動の機会確保に努める。

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

### とちぎ部活動移行プラン

#### 【基本目標】

生徒が主体的に多様なスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境づくりに取り組みます。

#### 【活動目標】

令和7(2025)年度までに、全ての公立中学校の休日の部活動を1つ以上、地域クラブ活動にすることを目指します。

年度	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)
期間	改革に向けた準備期間	改革推進期間(R5~R7)			移行期間(継続)
栃木県	栃木県部活動改革検討委員会開催 庁内部活動改革検討委員会ワーキンググループ開催				
	国庫事業を活用した体制構築・環境整備 ○実践研究(2市) 矢板市、佐野市 ○協議会の開催	国庫事業を活用した体制構築・環境整備 ○実証事業(5市、県立中学校3校) 小山市、栃木市、矢板市、那須塩原市、佐野市 県立中学校3校 ○コーディネーターの配置	国庫事業を活用した体制構築・環境整備 ○実証事業(市町、県立中学校3校) 実証事業実施市町の拡充 県立中学校3校 対象部活動の拡充 ○コーディネーターの配置	地域クラブ活動の体制構築・環境整備 とちぎ部活動移行プラン 活動目標 令和7(2025)年度までに、全ての公立中学校の休日の部活動を1つ以上、地域クラブ活動にすることを目指します。	地域クラブ活動への移行に向けた取組(継続) 地域クラブ活動の体制構築・環境整備(継続)
	普及・啓発活動 説明会の開催 総括コーディネーター派遣	休日の部活動の地域移行に関する市町支援 ○市町担当者会議の開催 ○個別相談会の開催 ○総括コーディネーター派遣	休日の部活動の地域移行に関する市町支援 ○市町担当者会議の開催 ○個別相談会の開催 ○総括コーディネーター派遣		
		「栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク」の設置、運用	「栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク」の運用		
	「とちぎ部活動移行プラン」策定	「栃木県学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針」策定	「とちぎ部活動移行プラン(Ⅱ期プラン)」検討		
休日の部活動の地域移行に関する情報収集、各市町の進捗状況把握 アンケートの実施					

**【栃木県小山市】  
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業  
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	栃木県小山市
担当課名	教育委員会学校教育課
電話番号	0285-22-9676

# 1. 自治体の基本情報

## 基本情報

人口	166,000人	部活動数	109部活
公立中学校数	11校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	4,367人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

運動部活動の地域移行に向けて、本市では、栃木県の行動目標に準じ、「令和7年度末までに、市内全中学校・義務教育学校後期課程の休日の部活動において、各校1つ以上の部活動を地域クラブ活動へ移行する。」という行動目標を設定した。行動目標の実現に向け、現状の取組として一つは「市地域クラブ活動推進協議会」を開催した。市の「部活動の地域クラブ活動移行の基本方針」策定に当たり、意見・助言を仰ぐ機関として設置し、令和5年度は12月と3月（予定）に実施。また、地域クラブ活動移行に関する、活用可能な社会資源等（人材・活動場所など）についても、協力を仰ぐ予定である。部活動の休日の部活動の地域クラブ活動移行については、小山第三中学校柔道部、絹義務教育学校剣道部において休日の部活動の地域クラブ活動を行っている。2校とも、部活動指導員が休日のクラブ活動指導員として指導を行っている。

課題として、一つ目は地域クラブ活動を行うための受け皿の確保・指導者の確保があげられる。総合地域型スポーツクラブの方に協議会の委員として入っていただいているが、各校1つの部活動を地域へ移行するとしても、市内11校の部活動を受け入れるのは厳しい状況である。そのため、個人のクラブ活動指導員を確保する必要が出てくるが、人材バンクの設置を含め、適正人材の数を確保することは課題である。二つ目は、保護者の理解があげられる。小山市独自に行ったアンケートによると、休日の部活動が地域移行になった場合不安に感じていることは、送迎に関する物理的・時間的負担を最も不安に感じている。以下、金銭面（受益者負担）、指導者の人間性や教育力となっている。保護者の不安を軽減し、生徒のための地域クラブ活動移行を進めることが課題である。

休日の部活動が地域スポーツ・文化活動に移行した場合(回答数:1,356人)

質問	全く心配ない	どちらかと言え ば心配ない	どちらかと言え ば心配だ	非常に心配だ
①活動に当たっての金銭的な負担に関して	6.0%	34.7%	46.4%	12.9%
②活動場所への送迎の物理的・時間的負担に関して	3.9%	19.7%	51.6%	24.8%
③学校の友人を越えて新たな交友関係を築くことに関して	34.3%	50.9%	12.7%	2.1%
④地域の指導者の指導能力や指導方法に関して	12.2%	45.9%	34.4%	7.4%
⑤地域の指導者の人間性や教育力に関して	10.6%	37.5%	41.3%	10.6%

「小山市地域クラブ活動移行に係るアンケート保護者対象より(令和5年7月実施)」

## 2. 実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ▼行政組織内での役割分担

##### ●教育委員会（学校教育課）

- ・休日の部活動の地域クラブ活動移行の計画立案・実施
- ・地域クラブ活動推進協議会事務局（開催・運営）
- ・地域クラブ活動運営団体・指導員の確保
- ・クラブ活動指導員の管理・研修
- ・学校との連携（施設・生徒指導・保護者対応）
- ・教職員の兼職兼業について

（教育委員会：生涯スポーツ課・生涯学習課）

- ・クラブ活動指導員バンクの設営

##### ●首長部局

- ・現時点では、地域クラブ活動移行に関する全ての業務を教育委員会が担当しているので、他の課はありません。

### 年間の事業スケジュール

令和5年度

4月～7月：実証事業モデル校検討／地域クラブ活動推進協議会の在り方検討・協議委員への依頼／生徒・保護者・教職員対象アンケート実施（7月）

8月～9月：実証事業モデル校との打合せ・保護者説明／地域クラブ活動推進協議会内容検討／関係課との事前打合せ

10月～1月：モデル校での実証事業の実践・検証／第1回地域クラブ活動推進協議会開催（12月）

2月～3月：実証事業検証・報告／次年度のモデル校検討・決定／第2回地域クラブ活動推進協議会（3月）

## 2. 実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

拠点校数	2校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	柔道・剣道
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	2部活		

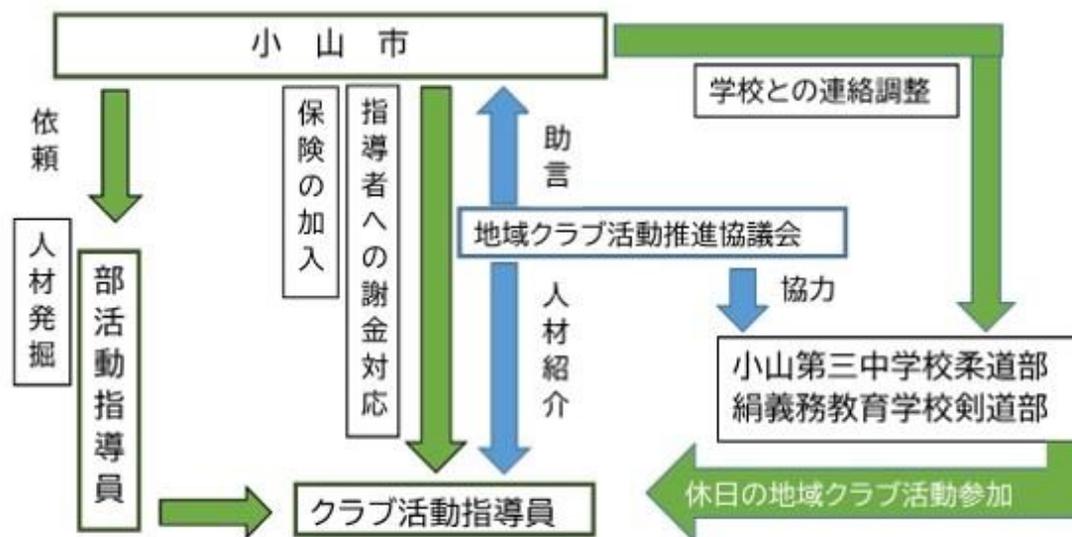
### 主な取組例

#### ▼活動概要

拠点校名	小山第三中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1部活
地域クラブ活動で実施した種目	柔道
運営主体名	地域クラブ活動指導員
運営類型	市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
1か月あたりの平均的な活動回数	柔道：月2回程度
指導者の主な属性	地域部活動指導員
活動場所	小山第三中学校柔道場
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	今年度は参加費負担を行わない。 ※市で補助
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）

（運営体制図）



## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

#### 取組事項

- ・小山市地域クラブ活動推進協議会の設置
- ・第1回小山市地域クラブ活動推進協議会開催（令和5年12月18日）
- ・第2回小山市地域クラブ活動推進協議会開催（令和6年3月18日）

#### 取組の成果

○市としての、地域クラブ活動移行の方針、活動目標の決定

【方針】「休日における部活動の地域クラブ活動移行を通して、生徒の活動の機会を確保する。（生徒にとって望ましい部活動を第一に考える）」

【行動目標】「令和7年度末までに、市内全中学校・義務教育学校の休日の部活動において、各学校1つ以上の部活動を地域クラブ活動へ移行する。」

#### 特に工夫した事項

委員の構成として、部活動、地域クラブ活動に関係する人材を多方面から募り、市地域クラブ活動推進協議会を発足した。

小山市地域クラブ活動推進協議会委員

No	選出区分	役職等
1	公益財団法人小山市スポーツ協会	会長
2	ミズノ株式会社(市立体育館)	職員
3	NPO 法人総合型地域スポーツクラブおにっこクラブ	副会長
4	小山市文化協会	副会長
5	文化活動専門家	ヴァイオリン奏者
6	学識経験者	白鷺大学教授
7	小山市 PTA 連合	副会長
8	小山市校長会	小山城南中学校長
9	小山市校長会	小山第三中学校長
10	教育総務課	課長
11	生涯スポーツ課	課長
12	生涯学習課	課長
13	文化振興課	課長

#### 今後の課題と対応方針

- ・地域クラブ活動推進協議会での助言や意見を反映した取組の推進。
- ・指導員の紹介や社会施設の利用の協力を具体的に進めること。

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保証・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

##### 取組事項

- ・部活動指導員の活用
- ・地域クラブ活動推進協議会からの人材派遣協力

##### 取組の成果

- ・普段の部活動から指導を行っている部活動指導員が地域クラブ活動指導員として活動を行っているため、生徒も保護者も不安感が少なかった。
- ・部活動顧問を含む、学校との連携もスムーズであった。
- ・地域クラブ活動推進協議会からの人材派遣協力は次年度のモデル校での実証事業で活用する予定である。

##### 特に工夫した事項

・アンケート結果では、生徒が望む指導者で最も多かったのは、「自校の部活動の先生」であり、次に多かったのが、「専門的な技能や知識を有する地域のスポーツ指導者」であった。部活動指導員は、常時指導を受けており、専門的スキル知識を有しているため、生徒の望む指導者を選択した。

地域のスポーツ・文化活動に参加する場合、様々な立場の人から指導を受けられる可能性があります。以下の指導者からの指導をどの程度希望しますか。

- 1 平日の部活動で指導を受けている自分の学校の先生希望する・・・81.2%
  - 2 その活動の専門的な技能や知識を有する地域のスポーツ指導者希望する・・・77.4%
- 「地域クラブ活動移行に係るアンケート（回答数3,455人）  
（令和5年7月実施：生徒対象アンケートより）」

##### 今後の課題と対応方針

・今年度は、部活動指導員だけの地域クラブ活動になってしまったが、次年度は市のスポーツ協会からの派遣や部活動指導員ではない地域の指導者をクラブ活動指導者として地域クラブ活動を進めていきたい。

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保証・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

・地域クラブ活動推進協議会の委員に、学校部活動関係者（校長）・地域スポーツ関係者（市スポーツ協会・地域スポーツ団体）・部活動に関する有識者（白鷗大学教授）・市の施設管理者・PTA代表・関係各課長を協議会委員とした。

##### 取組の 成果

- ・白鷗大学の教授から、部活動に関して専門的立場から助言を得ることができた。
- ・校長会で説明を行うことで「休日における地域クラブ活動移行」について、各中学校、義務教育学校職員への周知が図られた。
- ・地域スポーツ関係者へ、人材派遣の協力・施設利用の協力を要請した。

##### 特に 工夫した 事項

・協議委員の人選について、生徒の身近にいる、学校関係者（校長）、保護者代表（PTA代表）、地域スポーツとしての観点から、また、人材の確保の面から、地域スポーツ団体・市スポーツ協会、活動における施設面から市で委託している事業者の代表、専門的な意見を得るために大学教授、令和8年度以降の地域クラブ活動移行を見据えて、市の文化・芸樹に関係する方、他課と協働して進めていく上で、学校教育課以外の教育委員会所属の課長などを協議委員として、いろいろな立場から、幅広く意見を取り入れて地域クラブ活動移行を進めていけるよう、協議委員の人選を行った。

##### 今後の 課題と 対応方針

- ・学校部活動から、地域へ移行をしていく上で、学校対応と地域対応の役割の明確化が必要である。
- ・先を見通して、関係する課と情報を共有し、部活動の地域移行に対応していく。

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

**エ：面的・広域的な取り組み**

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

### 取組内容

#### ▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

##### 取組事項

- ・市内の中学校、義務教育学校で一つしかない柔道部を地域クラブ活動移行の実証モデルとした。
- ・小中一貫の義務教育学校を地域クラブ活動移行の実証モデルとした。

##### 取組の 成果

- ・今年度は、学校区を越えた参加は行わなかったが、同校の柔道部ではない生徒が休日のクラブ活動に参加した。
- ・次年度に向けて、学校区を越えたクラブ活動の参加の方法の検証が行えた。
- ・義務教育学校の特性を生かし、休日のクラブ活動で小学6年生の参加が見られた。

##### 特に 工夫した 事項

- ・市内の中学校、義務教育学校で一つしかない柔道部を地域クラブ活動移行の実証モデルとした点。
- ・小中一貫の義務教育学校を地域クラブ活動移行の実証モデルとした点。

##### 今後の 課題と 対応方針

- ・学校区を越えた参加をするにあたり、平日に活動している部活動との兼ね合い。
- ・学校関係者との検討が必要である。

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保証・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
**キ：学校施設の活用等**  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

##### 取組事項

- ・地域クラブ活動の活動場所は、学校の施設を活用した。
- ・地域クラブ活動においても、市の部活動ガイドラインを遵守した。

##### 取組の 成果

- ・学校施設を利用しているので、送迎の負担がない。
- ・他の部活動も活動しているので、学校職員の緊急時の対応が可能。

##### 特に 工夫した 事項

- ・特になし

##### 今後の 課題と 対応方針

- ・施設の管理、施設が課題である。
- ・校庭、体育館、柔道場、剣道場のように活動場所が独立していれば、鍵の管理をクラブ活動指導員に任せられるが、校舎に入らないと活動場所に行けない場合は、現状、学校の協力が不可欠である。

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

小山市地域クラブ活動移行に係るアンケート結果抜粋  
令和5年7月5日（水）～7月20日（木）実施 生徒 3,455 人回答

○ 全員に質問します。国は学校の部活動について、まずは休日の部活動を地域に移行することについて議論を進めています。休日の部活動が学校の部活動でなくなることにあなたはどのように思いますか。

- ①とても賛成である 601(青)
- ②どちらかという賛成である 1053(橙)
- ③どちらかという賛成ではない 1141(緑)
- ④全く賛成ではない 660(赤)



○ 全員に質問します。休日の部活動が学校の活動ではなく地域のスポーツ・文化活動として移行した場合、あなたはどうしますか。

- ①参加したい 772(青)
- ②どちらかという参加したい 1114(橙)
- ③どちらかという参加したくない 972(緑)
- ④参加したくない 597(赤)



○ 全員に質問します。地域のスポーツ・文化活動に参加する場合、様々な立場の人から指導を受けられる可能性があります。以下のような指導者からの指導をあなたはどの程度希望しますか。①から⑥のそれぞれについて、当てはまるものを1つお答えください。(単位は%)

希望する(赤) どちらかという希望する(茶) どちらかという希望しない(青) 希望しない(紺)



【生徒対象アンケート】

小山市地域クラブ活動移行に係るアンケート結果抜粋  
令和5年7月5日（水）～7月20日（木）実施 保護者 1,356 人回答

○ 全ての方に質問します。現在部活動の地域移行、特に休日の部活動の地域移行についての議論が進められていますが、あなたは現在の部活動の在り方を変える必要があると思うかお答えください。

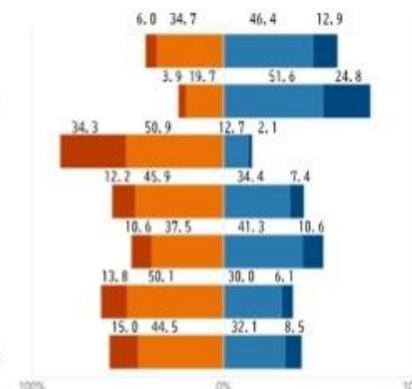
- ①非常に必要であると思う 289(青)
- ②どちらかという必要であると思う 647(橙)
- ③どちらかという必要だとは思わない 362(緑)
- ④全く必要だとは思わない 58(赤)



○ 全ての方に質問します。休日の部活動が地域スポーツ・文化活動に移行した場合、以下の①から⑦のそれぞれについて、当てはまるものを1つお答えください。(単位は%)

全く心配はない(赤) どちらかという心配はない(橙)  
どちらかという心配である(青) 非常に心配である(紺)

- ①活動に当たっての金銭的な負担に関して
- ②活動場所への送迎の物理的・時間的負担に関して
- ③お子様が、学校の友人を越えて新たな交友関係を築くことに関して
- ④地域の指導者の指導能力や指導方法に関して
- ⑤地域の指導者の人間性や教育力に関して
- ⑥地域スポーツ・文化活動が、お子様にとって有意義な活動になるのか否かに関して
- ⑦スポーツ推薦や内申点の扱いなど、進路・進学への影響に関して



【保護者対象アンケート】

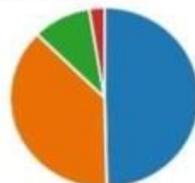
## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

小山市地域クラブ活動移行に係るアンケート結果抜粋  
令和5年7月5日（水）～7月20日（木）実施 教職員230人回答

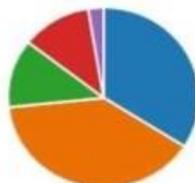
○現在部活動の地域移行、特に休日の部活動の地域移行についての議論が進められていますが、あなたは現在の部活動の在り方を変える必要があると思うかお答えください。

- ①非常に必要であると思う 134(青)
- ②どちらかという必要であると思う 102(橙)
- ③どちらかという必要だとは思わない 27(緑)
- ④全く必要だとは思わない 7(赤)



○部活動の在り方を変えていく具体的な方策として地域移行という方向性が示されたわけですが、あなたはこのことについては賛成ですか、反対ですか。

- ①非常に賛成であり、平日も含めて地域移行を進めるべきだと思う 92(青)
- ②どちらかという賛成であり、考え方は理解できるが、課題も多いと感じるので、休日の地域移行を進めながら、よりよい対応を検討していくべきだと思う 106(橙)
- ③現時点では判断はつかないので、どちらともいえない 33(緑)
- ④どちらかという反対であり、地域に移行することだけでなく、学校に残すことも含めて、より多くの選択肢の中から最善の改革策を検討していくべきだと思う。 32(赤)
- ⑤全く反対であり、部活動は学校の教育活動として存続させるべきだと思う 7(紫)



○休日の部活動が地域に移行された場合、あなたは兼職兼業の許可を得て指導に従事するかどうかお答えください。

- ①必ず従事すると思う 32(青)
- ②従事する可能性が高いと思う 64(橙)
- ③従事しない可能性が高いと思う 107(緑)
- ④絶対に従事しないと思う 67(赤)



## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（活動写真）



【小山第三中柔道クラブ：指導】



【小山第三中柔道クラブ：練習1】



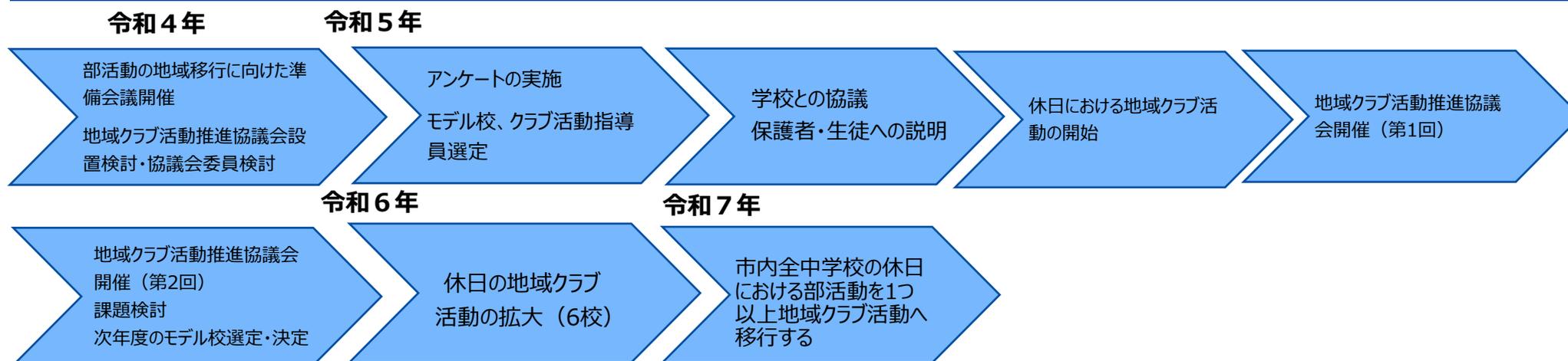
【練習2】



【練習3】

## 2. 実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



#### ○準備会議開催

- ・学校教育課が主体となって教育委員会関係各課と協議

#### （実施内容）

- ・今後の流れについて

①地域クラブ活動移行の方針について

②課題について

- ・指導者の確保・活動場所・予算・地域・保護者への啓発

③地域クラブ活動の実施

- 今後、地域クラブ活動移行を進めていく上での課題が明確になった。

- 課題解決の道筋は立っていない。今後も関係各課と協議しながら地域クラブ活動移行を進めていく。

#### ○地域クラブ活動推進協議会設置検討・協議会委員選定

- ・学校教育課が主体となって教育委員会関係各課と協議

①設置要領について

②協議会委員について

③協議事項について

○アンケートの実施（7月）

- ・学校教育課が実施
- ・生徒・保護者・教職員が対象
- ・白鷗大学教授からの助言を得て、アンケートを作成。

- 立場によって、地域クラブ活動移行に対しての考えの違いを把握することができた。

- 地域クラブ活動推進協議会の資料として活用。

#### ○モデル校・クラブ活動指導員選定

- ・学校教育課から学校長に打診
- ・部活動指導員が指導している部活動を休日の部活動に限り移行する。
- ・部活動指導員をクラブ活動指導員とする。

- 普段の部活動から指導に関わっているため、地域クラブ活動への移行はスムーズであった。

- 生徒にとっては、今までの部活動との違いが明確ではない。

○保護者・生徒への説明

- ・学校で保護者会を開き、学校教育課担当から保護者に対して説明。

- 保護者の主な意見としてクラブ活動に移行することへのメリットが感じられない。受益者負担。送迎負担など。

#### ○地域クラブ活動推進協議会開催（事務局：学校教育課）（議事）

- ・部活動の地域クラブ活動移行について
- ・小山市の取組と課題
- ・モデル校における実践研究の現状について
- ・アンケート結果より
- ・意見交換
- 小山市の方針が決定
- 今後の進め方の助言を受ける。
- 指導員・施設の協力を要請。
- 令和6年度は、モデル校を6校に増やし、実証事業を行う。

### 3. 今後の方向性

#### 地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

休日における部活動の地域クラブ活動移行のスケジュール

年度/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
R5	モデル校検討・モデル校との打合せ						モデル校での実践・検証				次年度モデル校検討 決定・課題検討	
実証活動	モデル校検討・モデル校との打合せ						モデル校での実践・検証				次年度モデル校検討 決定・課題検討	
協議会	協議会の在り方検討・協議委員への依頼						内容検討		第1回		第2回	
R6	モデル事業 準備(随時開始)		モデル校での実践・検証(6校)						次年度のモデル校 検討・決定(11校) 課題検討			
実証活動	モデル事業 準備(随時開始)		モデル校での実践・検証(6校)						次年度のモデル校 検討・決定(11校) 課題検討			
協議会	第3回						第4回					
R7	モデル事業 準備(随時開始)		モデル校での実践・検証(11校)						課題検討 地域クラブ活動準備			
実証活動	モデル事業 準備(随時開始)		モデル校での実践・検証(11校)						課題検討 地域クラブ活動準備			
協議会	第5回						第6回					
令和8年度以降、市内全中学校・義務教育学校の1つ以上の部活動を地域クラブ活動へ移行												

**【栃木県栃木市】  
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業  
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	栃木県栃木市
担当課名	教育総務課
電話番号	0282-21-2467

# 1. 自治体の基本情報

## 基本情報

人口	154491人	部活動数	161部活
公立中学校校数	13校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	3823人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中 (令和6年3月策定予定)

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

1 学校部活動加入率については、令和5年までの6年間で、3.5%減少。(R5 市調査)

→ 今後も減少傾向にあると考えられる。

平成30年度	令和5年度
89.9%	86.4%

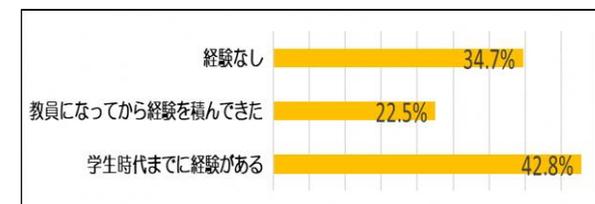
2 地域スポーツクラブ等加入生徒数については、令和5年までの6年間で、85人増加。(R5 市調査)

→ 生徒・保護者等のスポーツ・文化芸術活動への多様なニーズに対して、学校部活動のみでは対応ができない状況になっている。

平成30年度	令和5年度
520人	605人

3 部活動顧問の活動経験の有無については、「初めて担当する部であり、これまでの活動経験がない。」という教員が部活動顧問をしている割合は、全体の1/3を占めている。(R4 市調査)

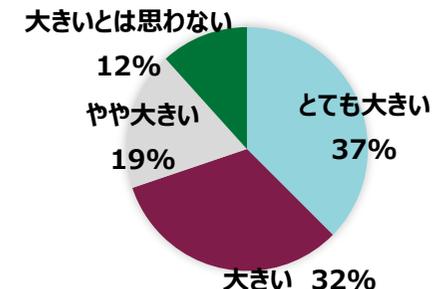
→ これらの教員にとっては、部活動指導がとても大きな負担となっている。



4 部活動顧問の負担感については、「どのくらいだと思うか。」の問いに、「とても大きい」「大きい」と答えた顧問の割合は、約7割(69.8%)にのぼる。(R4 市調査)

※「負担に感じること」の要因(回答の多い順) →

- ① 時間的拘束が長い
- ② 慣れない部活動の指導
- ③ 保護者の期待



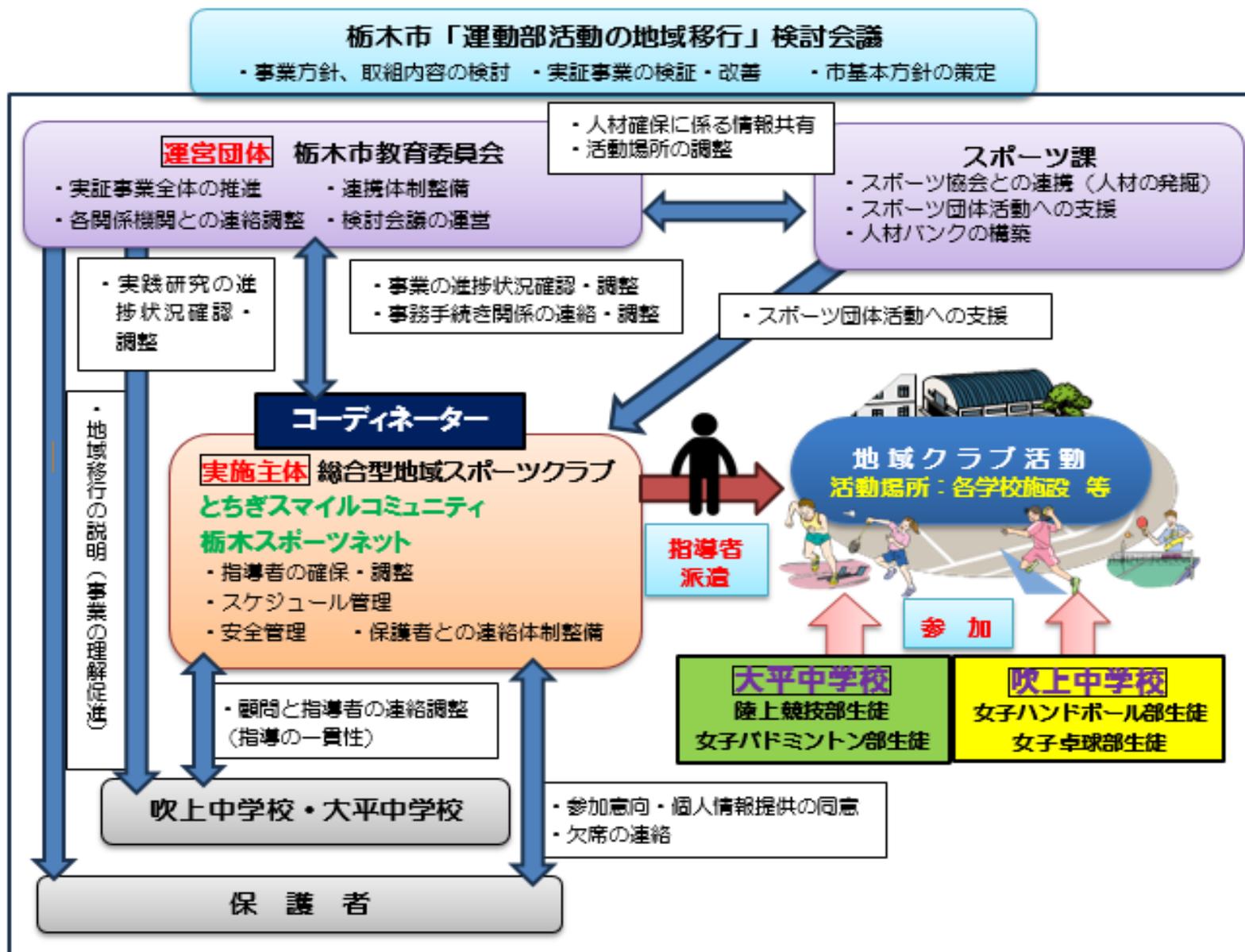
5 総合型地域スポーツクラブについては、市内に4つ存在するが、受け皿として可能な団体は現在2つのみ。

→ 地域格差があるとともに、2団体に所属している指導者が多種目にわたり十分に在るわけではなく、指導可能種目に偏りがある。

## 2. 実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ▼行政組織内での役割分担

##### ● 教育委員会（教育総務課）

- ・実証事業全体の推進
- ・連携体制整備
- ・各関係機関の連絡・調整
- ・検討会議の運営

##### ● 市長部局（スポーツ課）

- ・スポーツ協会との連携（人材の発掘）
- ・スポーツ団体活動への支援
- ・人材バンクの構築

## 2. 実証内容と成果

### 年間の事業スケジュール

時期	事業スケジュール
4月	・実証事業の準備 ・保護者説明会（学校主導）
5月	・モデル校及びモデル団体との連絡調整
6月	・第1回検討会議の開催（実証事業の内容検討・確認、市基本方針：骨子案の内容検討） ・モデル校及びモデル団体との連絡調整
7月	・モデル校及びモデル団体との連絡調整 ・広報チラシ①の発行（本市の目指す方向性や事業内容） ・顧問・指導者合同研修会
8月	・モデル校保護者対象事前説明会 ・事前準備：顧問と地域指導者の指導方針・指導方法等のすり合わせ ・モデル校及びモデル団体との連絡調整
9月	○モデル事業開始：2中学校・4部活における地域クラブ活動
10月	・第2回検討会議の開催（事業の中間検証・改善、次年度の事業の方向性について 等）
11月	・校長会中学校部会への進捗状況報告及び次年度意向調査
12月	・第3回検討会議の開催（事業の検証・改善、市基本方針案の内容検討 等） ・広報チラシ②の発行（モデル事業の経過報告について 等：市内全教職員・関係保護者対象）
1月	・モデル校・モデル団体・保護者・生徒へのアンケート調査実施 ・第4回検討会議の開催（事業成果報告、来年度に向けた検討課題、市基本方針案の内容確認）
2月	・事業完了報告書・成果報告書等の作成・提出
3月	・市基本方針の策定 ・広報チラシ③の発行（市基本方針の概要、次年度の取組 等）

## 2. 実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

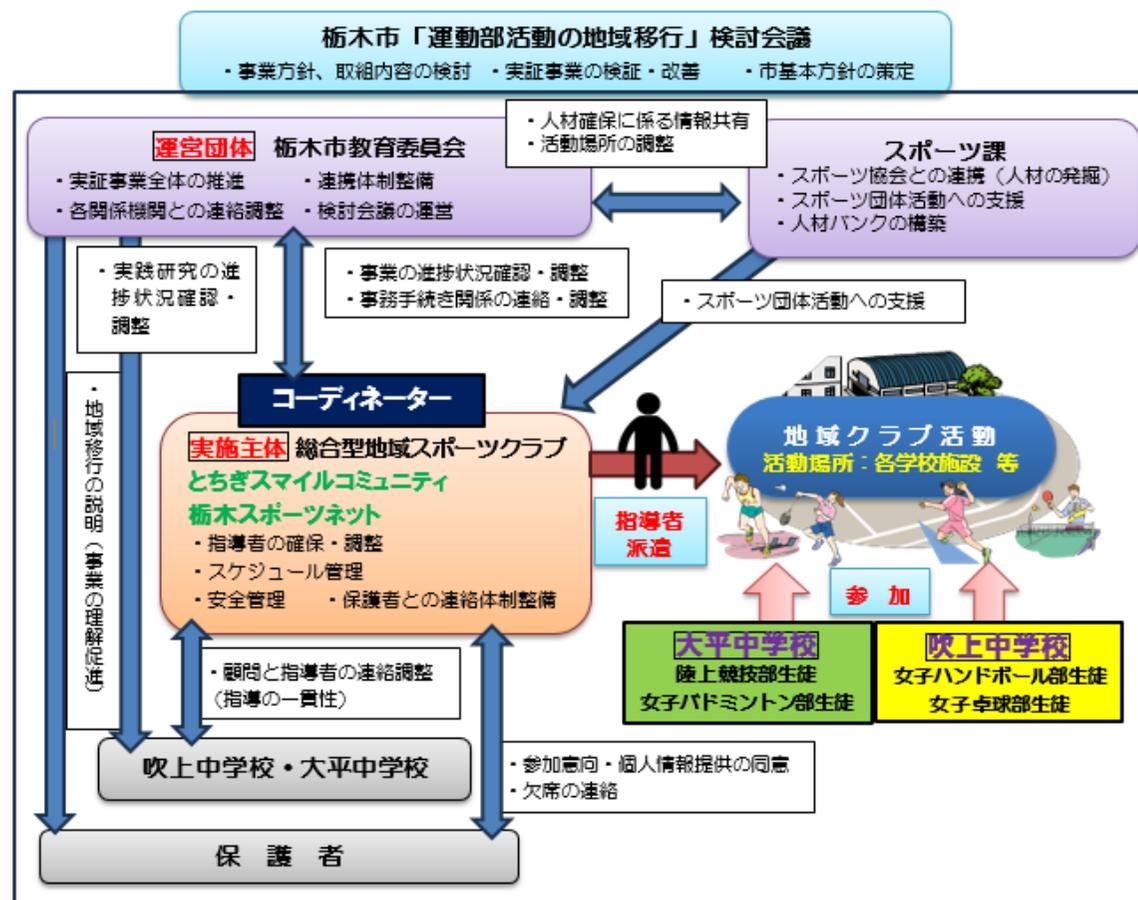
拠点校数	2校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	・吹上中学校：女子ハンドボール, 女子卓球 = 2部活 ・大平中学校：陸上競技, 女子バドミントン = 2部活
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	4部活		

### 主な取組例

#### ▼活動概要

拠点校名	栃木市立吹上中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	2部活
地域クラブ活動で実施した種目	女子ハンドボール, 女子卓球
運営主体名	栃木市
運営類型	市区町村運営型（競技団体連携型）
1か月あたりの平均的な活動回数	女子ハンドボール：月2～3回程度 女子卓球：月4回程度
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ所属の指導者
活動場所	学校施設
主な移動手段	自転車, または徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	女子ハンドボール：会費なし 女子卓球：会費なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり： 70歳未満 1,850円/年 70歳以上 1,200円/年

#### ▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

##### クラブコーディネーターによる関係団体・機関との連絡調整の体制整備に関する取組

- ・本市が運営事務局となり、運営体制が整備されている2つの総合型地域スポーツクラブと連携することで、質の高い指導者を獲得するとともに、学校と総合型地域S Cが連絡調整を行うことで、地域クラブ活動に適切な指導者を派遣した。
- ・実施主体となる2つの総合型地域S Cに、クラブコーディネーターを配置し、運営事務局と実施主体、学校と実施主体、部活動顧問と指導者との連絡調整や生徒・保護者との関わり（連絡等）において対応する業務を行った。

##### 取組の成果

- ・地域との関わりが強く、多様なニーズに対応できる総合型地域S Cを受け皿としたことは、実証事業の円滑な推進の大きな原動力になった。複数種目に、質の高い指導者を派遣できたことは非常によかった。
- ・総合型地域S C所属の職員がコーディネーターを担うことで、特に、部活動顧問と指導者との連絡調整が円滑に行われた。また、メールやHPを活用した保護者との連絡体制の整備が確立された。
- ・2つの総合型地域S Cが、関係機関・団体や各種競技団体等とつながりをもったことで、人材を確保する体制整備とともに、クラブの拡充につながった。

##### 特に工夫した事項

- ・総合型地域S C所属の職員がコーディネーターを担うことで、運営事務局と実施主体、学校と実施主体、部活動顧問と指導者との連絡調整や生徒・保護者との連絡体制の整備が円滑に行われた。

##### 今後の課題と対応方針

- ・現存している2つの総合型地域S Cをさらに拡充し、多種目の指導に対応できる組織の充実を図ることが重要である。そのためには、関係機関団体・各種競技団体との密な連携を図り、指導者の紹介・推薦の依頼をしていく。
- ・地域と連携し、本事業への理解を地域へ促すとともに、公募により地域人材の発掘に努める。
- ・総合型地域S Cを中心に、スポーツ協会や各種競技団体等とのネットワークを構築し、情報の共有や指導者の確保などを推進していく。

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
**イ：指導者の質の保証・量の確保**  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

#### 取組事項

##### 平日と休日の一貫した指導の取組

- ・地域クラブ活動開始前の1か月程度を移行期間とし、部活動顧問と地域指導者との打合せの機会を数回設け、指導方針や指導方法、生徒理解に関する内容を共有した。また、活動開始後も、定期的に指導方針の確認や活動状況等を共有する時間を確保した。
- ・平日と休日の練習内容を共有する際に、民間のシステム（LINE WORKS）を活用した。
- ・研修会において、緊急時対応マニュアルを作成・活用した。

#### 取組の成果

- ・活動開始前に、指導者同士の指導方針等のすり合わせや指導者と生徒がふれあう時間を確保したことで、円滑に活動を開始することができ、生徒の安心感にもつながった。また、定期的なすり合わせの機会を確保することで、年度を通して一貫性のある指導が実践できたと感じる。（アンケート結果参照。顧問と指導者の連携について、「十分図られている・まあ図られている」の回答者が、9名中7名：78%）
- ・民間のシステム（LINE WORKS）を活用したことで、効率的に練習内容等の共有が図られた。
- ・研修会において、緊急時対応マニュアルを作成し、万一の救急対応について、共通理解が図られた。

Q15 指導者との連携は十分か

回答者数：6名	人
まあ図られている	3
十分に図られている	2
全く図られていない	1

Q11 顧問との連携は十分に図られているか

回答者数：3名	人
まあ図られている	2
あまり図られていない	1

#### 特に工夫した事項

- ・指導者同士での指導方針等のすり合わせを定期的に行うことで、指導者同士の安心感にもつながった。
- ・指導内容の共有のために紙ベースでの指導日誌のやり取りを行っていたが、効率化を図るため、民間のシステム（LINE WORKS）の「ノート機能」（右画像参照）を活用し、スマートフォンを通して、速やかにやり取りができる方策を実践した。また、練習日程表や緊急連絡等のやり取りも円滑に行うことができた。



#### 今後の課題と対応方針

- ・アプリ等のICTの活用については、操作に抵抗を感じる指導者もいるので、研修会を設けることや紙ベースで効率化を図る方策も検討する。
- ・安全面を担保するため、専門家を講師としたAEDの適切な使用等のより実践的な研修を実施したい。また、技術面や生徒指導面に関する研修会の開催を検討したい。技術面では、優れた専門性や資質能力を有する指導者を中心に、実地研修等後継者育成も視野に入れた研修会、生徒指導面では、体罰防止やいじめ対応、メンタルヘルスや適切なコミュニケーションに関する内容等が考えられる。
- ・教員の兼職兼業について、規程の整理を行うとともに教員への理解促進を図り、運用を進めていく。

# 2. 実証内容と成果

## 参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）



○構成員…校長会代表（4名）、PTA代表（中学校PTA会長等2名）  
 スポーツ団体（実施主体、スポーツ協会副会長等5名）、行政代表（2名） 計13名

○検討内容  
 ・実証事業の実施方針及び具体的取組内容の決定  
 ・実証事業の実践の共有と検証・改善  
 ・栃木市「部活動の地域移行」基本方針の策定（内容検討 等）

令和5年度モデル事業の取組内容【中間報告①】 【資料1】

1 リーフレットによる啓発（第1号：7月） → 【資料2】参照  
 ・市内小中学校全教職員、小5～中2年全保護者配付  
 ・国の方針及び本市の方針、モデル事業の概要等について周知  
 ・今年度…3回発行予定

2 三春打合せ（学校・スポーツクラブ・市教委）  
 取上中：8月18日  
 【確認事項】  
 ・事業実施内容確認、鍵の扱い方確認 等  
 【課題】  
 ・保護者との連絡手段の整理  
 ・大会、練習試合の引率について → 【資料3】参照  
 ・指導日誌内容の効率的な伝達手段 → ラインワークスの構築

大平中：8月4日  
 【確認事項】  
 ・事業実施内容確認  
 ・顧問と指導者の組み合わせ、連絡手段確認  
 ・クラブ活動内容調整（練習時間、練習場所、使用用具 等）  
 ・移行期間開始の調整  
 【課題】  
 ・大会、練習試合の引率について

3 保護者説明会（市教委事務局、クラブ関係者）  
 ○取上公民館：8月18日 保護者10名参加  
 ○大平公民館：8月21日 保護者27名参加  
 ・スポーツクラブ及び指導者紹介  
 ・事業内容説明  
 ・クラブ活動内容説明  
 ・個人情報提供依頼  
 ・保護者側の欠席等の連絡やクラブ側からの連絡の手段について  
 【質疑応答】練習試合や大会の引率について/市としての今後の方針について 等

4 移行期間（7～8月）の対応  
 ※取上中：7月22日～、大平中：8月8日～  
 ・生徒との組み合わせ  
 ・顧問の指導方針・指導方法等の確認  
 ・開始日、練習時間、練習場所、使用器具、鍵・施設等の確認  
 ・鍵のやり取り（教頭対応）  
 ・練習当日の流れ（開錠・準備～片付け・施設等）の確認

5 クラブ活動開始（9月～）

中学校名	取上中学校		大平中学校	
部活動名	女子卓球	女子ハンドボール	陸上競技	女子バドミントン
スポーツクラブ名	とちぎスマイルコミュニティ 栃木スポーツネット			
地域指導者	中村 孝典	山井 佑利香	小宮戸 聖 須藤 佳次	大沢 史夫
活動日	土曜日	土曜日	土曜日	土曜日
活動時間	8:30～10:30	8:30～10:30	9:00～11:00	13:00～16:00
所要費あり				
活動場所	取上中学校 技術室	取上中体育館	大平運動公園 大平中学校庭	大平中体育館
生徒数	21名	14名 (内 大平中：2名)	27名	19名

(1) 活動日当日の流れ → 【資料4】7参照

(2) 顧問と指導者の連携のための「活動日誌」について  
 ・取上中→取組後、学校ポスホへ → ラインワークスへ移行中  
 ・大平中→取組後、事務局へ → クラブCo.が連絡の軸に事務局から学校へ  
 → 週末に、顧問から部長へ → クラブ活動開始時に、部長から指導者へ

(3) 保護者との連絡体制の整備  
 ・クラブ活動における連絡は、クラブまたは指導者の対応（学校は関わらない）  
 ・HP、メール、携帯のSMS 等の活用  
 ・一斉メール配信の活用  
 ・緊急時は、指導者または事務局から保護者個人の携帯へ連絡

【課題】

- 顧問と指導者の連携（指導の一貫性）  
 ・クラブ活動のスタートにあたり、部活動顧問及び地域指導者の指導方針や指導方法等の共通理解を図ること。
- 学校体育と社会体育の違いの理解  
 ・学校部活動と地域スポーツ活動の考え方の違いの理解を図ること。
- 保護者・生徒の理解  
 ・早い段階で事前説明を行い、本事業への十分な理解の上での生徒の参加を図ること。
- 学校における業務の負担  
 ・顧問や管理職の事務処理等の負担増を避けること。

「栃木市版 部活動の地域移行」基本方針【案】

～ 中学校部活動の地域移行全面实施を目指した～  
 ‘休日における部活動の段階的な地域移行’～

対象期間 令和6(2024)年度～令和10(2028)年度



目次

- はじめに . . . . . 1
- 1 国及び県の方針 . . . . . 2
- 2 国及び県の方針を踏まえた地域クラブ活動への移行の全体像 . . . . . 4
- 3 市の中学校部活動を取り巻く現状や課題 . . . . . 5
- 4 市の基本的な考え方 . . . . . 7
- 5 市・学校・運営団体の役割と移行の流れ . . . . . 9
- 6 学校部活動から地域クラブ活動への基本的な実施内容 . . . . . 10
- 7 具体的課題と今後の取組 . . . . . 12
- 8 推進体制について . . . . . 16
- 終わりに . . . . . 17
- 関連資料 . . . . . 18

令和6(2024)年3月  
 栃木市教育委員会

事業実践の取組内容 報告資料

栃木市「部活動の地域移行」基本方針

### 【栃木市運動部活動の地域移行検討会議】

# 2. 実証内容と成果

## 参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

**部活動の地域移行だより** 第1号 令和5年7月  
発行：栃木市教育委員会事務局 教育総務課教育政策係  
電話：0282-21-2467

～ 学校部活動から地域クラブ活動へ～

### 休日の中学校部活動の地域移行に向けた取組を進めています！

**なぜ、部活動の地域移行をするの？**  
部活動は、長年にわたり生徒の体力や技術の向上にもとより、豊かな人間性の育成にも寄与するものとして、大きな役割を担ってきました。しかし、少子化に伴う部員数・部活動数の減りにより、学校単独でチームが編成できない、やりたい部活動が設置されないケースが増えています。また、休日も含めた指導など、部活動は教員の職員の勤務によって支えられており、教員に大きな業務負担となっている実態もあり、もはや学校だけで部活動を継続していくことは困難になっています。本市では、今後も、生徒が継続してスポーツ活動に親しむ機会を確保し、併せて、学校の働き方改革を推進し、学校教育の質も向上させるため、学校と地域が協働した部活動の地域への移行を進めていきます。

【参考】「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」(令和2年9月 スポーツ庁)  
「学校部活動と新たな地域クラブ活動の切り分けに関する総合的なガイドライン」(令和4年12月 スポーツ庁・文化庁)

**「部活動の地域移行」とは？**  
これまで学校教育で行ってきた部活動を学校から切り離し、地域スポーツクラブ等の団体が運営主体となり、地域で行うスポーツ活動へと移行する改革です。国は、休日における部活動の段階的な地域移行を進めていくことを基本としており、令和5年度から令和7年度までの3年間を「改革推進期間」と位置付けています。**本市においては、国の改革推進期間にこだわることなく、地域の実情に応じて、まずは、休日における運動部活動から実施可能な部活動について段階的な地域移行を進めていきます。**その第一歩として、**令和5年度は「2中学校でのモデル事業」、令和6年度以降は「市内中学校への拡充」を段階的に進めていきます。**

**栃木市版「モデル事業」について**  
令和5年度に実施する対象モデル校及び部活動、連携するスポーツ団体は以下の通りです。モデル事業として研究を開始する時期は、3年生が引退し新チーム体制となる9月を予定しています。平日は、「顧問が指導する部活動」、土・日曜日は、「地域指導者が指導する地域クラブ活動」になります。

吹上中学校 女子ハンドボール部・女子卓球部  
大平中学校 陸上競技部・女子バドミントン部

地域スポーツ団体  
とちぎスマイルコミュニティ  
地域指導者の派遣（顧問との連携・指導の一貫性）  
栃木スポーツネット

学校部活動【平日】	地域クラブ活動【休日】
位置付け 学校教育の一環	社会教育
管理運営 学校	地域のスポーツ団体 等
指導者 教員、部活動指導員	地域指導者

モデル事業での成果と課題を「検討会議」において検証し、令和6年度以降の市内中学校における事業の拡充に活かしていきます。なお、モデル事業による活動のため、地域指導者への謝金や生徒が加入する傷害保険料等の費用に関しては、現在のところ保護者の負担はありません。

※「検討会議」とは？  
校長やスポーツ団体、PTA等の関係機関の代表者と市職員で構成する会議です。学校アンケート調査の結果分析や推進における課題、対策の検討、モデル事業の具体的な取組内容の検討、モデル事業の検証、推進計画の策定等を行います。令和5年度は、4回開催予定です。

### 部活動の地域移行 Q&A

**Q1 令和5年度から、学校の部活動がなくなってしまうの？**  
A1 令和5年度内になくなるということはありません。令和5年度から、休日の部活動を徐々に地域へ移行していきます。平日は、顧問の指導による学校部活動ですが、部活動指導員の配置や合同部活動の導入などの地域連携を促進していきます。

**Q2 地域移行は休日だけなの？**  
A2 将来的には、平日を含めた地域移行を目指しますが、まずは、休日の地域移行から推進し、地域の実情に応じて、平日の地域移行にも取り組んでいきます。

**Q3 文化は地域移行しないの？**  
A3 文化部活動についても、地域移行に取り組んでいきますが、まずは、運動部活動の地域移行を先行実施し、モデル事業等の実践研究で得られた成果と課題を生かして、休日活動している吹奏楽部等の文化部活動の地域移行を進めていきます。

**Q4 地域の指導者は十分にいるの？**  
A4 市内13中学校には、現在約140の運動部活動があります。市内全ての運動部活動において、休日の地域移行を進めていくための指導者を確保することは大きな課題となります。今後、関係機関や学校、地域スポーツ団体等と連携し、専門性を有する人材の確保に努めていきます。

**Q5 現在は保護者の費用負担はないが、これからはどうなの？**  
A5 将来的には、スポーツクラブの会費や傷害保険料などの費用は、受益者負担となる可能性があります。現在、国では、財政支援を検討しているところです。

本市では、部活動の地域移行を「着実に」進めます。保護者や地域の皆様のご理解・ご協力をお願いします！

**部活動の地域移行だより** 第2号 令和5年12月  
発行：栃木市教育委員会事務局 教育総務課教育政策係  
電話：0282-21-2467

～ 学校部活動から地域クラブ活動へ～

栃木市では、休日における「部活動」を「地域クラブ活動」へ段階的に移行する取組を進めています。今回は、**9月から活動がはじまったモデル事業の様子を紹介いたします！**

○ 吹上中学校・大平中学校におけるモデル事業の紹介！

◎保護者の皆さまにご理解とご協力をいただき、学校と地域スポーツクラブが連携して実践研究を進めています！

- 対象部活動** 吹上中学校：女子ハンドボール部・女子卓球部  
大平中学校：陸上競技部・女子バドミントン部
- 活動期間** 令和5年9月～令和6年3月 ○次年度も継続して実施予定です！
- 活動日・時間** 土・日・祝日の休日（土・日は、原則とちが1日）、概ね3時間程度  
○平日は、これまでとおり顧問の指導による学校部活動です！
- 活動場所** 学校施設及び近隣の社会体育施設
- 指導者について**
  - ・地域スポーツクラブに所属する地域指導者が指導をしています。
  - ・学校単位の活動になるため、学校の部単位に専属の地域指導者を配属しています。
  - ・校外での練習試合や中体連主催以上の大会参加（引率）を可能としています。その際は、地域クラブ活動として参加します。
- 費用について**
  - ・8月に移行期間を設け、顧問と地域指導者が打合せを行ったり、一緒に指導を行ったりすることで、指導方針や練習方法の調整を図りました。平日と休日の指導が一貫したものであるよう、また、生徒が安心して活動に参加できるよう努めました。
  - ・地域クラブ活動日誌等を活用して、顧問と地域指導者が活動内容を共有しています。
- 費用について**
  - ・地域指導者への謝金、交通費、スポーツ安全保険加入料、また、参加生徒のスポーツ安全保険加入料については、市の予算で対応し、国・県の補助金を活用しています。
  - ・※学校の教育活動外になりますので、部活動での事故等の補償対象外になります。
  - ・本モデル事業については、国の方針に基づいて実施するため、原則、保護者の皆さまからの会費等は徴収しないこととしています。

栃木市 連携  
総合型地域スポーツクラブ等のスポーツ団体 とちぎスマイルコミュニティ 栃木スポーツネット  
指導者派遣  
大平中学校 陸上競技部生徒 女子バドミントン部生徒  
吹上中学校 女子ハンドボール部生徒 女子卓球部生徒  
地域クラブ活動 活動場所：学校施設等  
参加

**【活動の様子】**

吹上中・女子ハンドボール 吹上中・女子卓球 大平中・女子バドミントン

◎対象中学校の校長先生にうかがった意見です！

- ・一番の課題と考えていた顧問と地域指導者の連携については、8月の移行期間で指導方針や指導方法等のすり合わせがしっかりと行えたので、9月から地域移行がスムーズに進められている。
- ・顧問と地域指導者は、メールや携帯電話等で連携を図り、生徒の指導に生かしている。
- ・顧問が地域指導者から専門的なアドバイスをもらい、指導に生かしている。
- ・地域指導者の専門的な指導で、生徒の技術力が向上した。
- ・指導者と生徒の関係が良好である。
- ・一番の課題と考えていた休日の大会引率については、方針の整理ができたのでよかった。
- ・顧問は異動が指定されるが、休日だけでも専らゆめ地域指導者に指導してもらえることは、生徒にとってメリットになると考える。
- ・顧問の負担軽減につながっている。

○活動に参加している生徒の感想です！（顧問の先生と市教育委員会担当の聞き取り）

教えてくださることが的確でありたい。 慣れてきて、活動が楽しくなってきた。 技能が向上してうれしい。 新しい練習ができてうれしい。 新しいことが学べる。

○栃木市運動部活動の地域移行検討会議の設置について

本市における部活動の地域移行に関する基本的な方針を策定するに当たり、広く意見をうかがうため、「**栃木市運動部活動の地域移行検討会議**」を設置しています。本会議は、各種スポーツ団体、PTA、学校、行政の代表で構成され、部活動の地域移行を推進する上での課題整理やモデル事業の運営方法、基本方針の考え方を議論しています。現在、本会議では、「**栃木市版 部活動の地域移行 基本方針**」を策定中です。次年度以降の本市における部活動の段階的な地域移行の基本的な方向性を示すもので、今年度末の策定を予定しています。

◎本市における運動部活動の地域移行の取組について、栃木市のホームページにも掲載しています。詳しくは、こちらをご覧ください！

- 部活動の地域移行だより
- ・2回発行（7・12月）※第3号は、3月発行予定
  - ・学校を介して小学4年～中学2年保護者へ配付
  - ・図書館や公民館等公共施設での設置、市HP公開
  - ・内容：第1号…本市における部活動の地域移行推進の説明 等  
第2号…実証事業の取組紹介 等

【保護者・地域向け広報啓発資料】

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

県教育委員会「休日の地域クラブ活動に関するアンケート」調査 令和6年1月実施 栃木市 集計結果（一部）		【資料2】保護者（栃木市地域クラブ活動参加生徒の保護者）	
<b>生徒</b> 栃木市地域クラブ活動参加の生徒)		※地域クラブ活動参加全生徒数…80名	
<b>Q11 困ったこと・悩み</b> ※回答人数：51名（複数回答可）	人	<b>Q12 参加してどう感じたか</b> ※回答人数：51名（複数回答可）	人
悩みはない	18	体力・技術が向上している	20
指導が厳しい	14	指導がわかりやすい	15
学業との両立	12	特になし	11
活動の時間が長い	9	指導が厳しい	9
指導者間の意見の相違	8	部活動がもっと好きになった	7
他の生徒との関係	7	顧問教員と連携して欲しい	6
実技指導をして欲しい	7	指導時間が長い	6
休日がない	5	もっと専門的な技術指導を受けたい	5
指導者が意見を聞いてくれない	3	指導がわかりにくい	5
活動の時間が短い	2	他校の生徒と交流できるので楽しい	5
家族の期待	2	情操が豊かになった	1
安全管理	2		
家族の理解が得られない	1		
		<b>Q9 部活動の将来どうあるべきか</b> ※回答人数：25名	人
		平日は学校、休日は地域で行うべき	12
		学校教育の一環として学校で行うべき	12
		地域で行う	1
		<b>Q12 参加して良かった点</b> ※回答人数：25名（複数回答）	人
		お父さんが専門的な知識・技能を習得できた	11
		お父さんの体力(技術)向上に繋がった	4
		お父さんの意欲が向上した	3
		顧問が専門的な指導法などを学ぶ機会となった	2
		他校の生徒などとお父さんの交流の幅が広がった	1
		お父さんの平日の活動にも好影響	1
		<b>Q11 学校と地域の活動のちがいを</b> ※回答人数：25名	人
		違いはない	3
		少し違う	14
		ほぼ違う	2
		全く違う	6
		<b>Q13 実践して感じた課題</b> ※回答人数：25名（複数回答）	人
		顧問と指導者の連携	18
		指導者間の指導方針の相違	9
		安全管理	8
		個人情報の管理の徹底	6
		指導の際の教育的配慮	5
		生徒同士の人間関係	4
		施設・設備の管理	4
		補償の差異	2
		指導時間・日数が短くなった	2
		<b>Q14 指導者の指導をどう感じているか</b> ※回答人数：25名（複数回答）	人
		適切な指導が行われている	10
		顧問教員との指導方針の相違がある	7
		顧問教員との連携不足	6
		技術が向上しない	4
		もっと専門的な指導をして欲しい	4
		指導方針が示されない	3
		指導時間・日数が短い	2
		<b>Q15 次年度も実施してほしい</b> ※回答人数：25名	人
		非常にそう思う	5
		まあそう思う	13
		あまりそう思わない	4
		全くそう思わない	3
<b>Q10 学校と地域での活動のちがいを</b> 回答数：51名		<b>Q13 次年度も参加したいか</b> 回答数：50名	
違いはない	2%	全くそう思わない	32%
少し違う	37%	まあそう思う	28%
ほぼ違う	26%	とてもそう思う	24%
全く違う	35%	あまりそう思わない	16%
<b>Q19 地域移行をどう思うか（自由記述）</b>		<b>肯定的な意見</b>	人
よい・賛成	18	否定的な意見	人
体力・技術が向上した	3	反対	4
違う先生から教えてもらうことはよい	2	クラブ（他の学校）の人がいるからやりづらい	3
たのしい	2	知らない人だから嫌	2
平日に地域移行したい	1	別の指導者がいい	2
学校は異なる練習で楽しい	1	部活がいい	2
自分がやりたいことができる	1	しっかり管理してほしい	1
指導がとても分かりやすい	1	指導者の真剣さや熱心が少しも感じられない	1
熱心な指導	1	指導が偏っている	1
改善点を発見、向上心が高まる	1	顧問の先生のほうが優しく、分かりやすい	1
顧問の先生の負担が減るのでよい	1	別の時間帯がいい	1
		自分たちがやりたいことができない	1
		楽しくない	1
		指導内容が分からない	1
		当日の電話連絡が大変	1
		さぼっている人が多い	1
		変化が大きい	1

【アンケート調査結果（1月実施）：生徒・保護者】

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

#### 教員（栃木市モデル事業対象部活動の顧問）

<b>Q10 実践してよかったこと</b>		<b>Q11 実践して感じた課題</b>	
※回答人数：6名（複数回答）	人	※回答人数：6名（複数回答）	人
自身が休めるようになった	6	施設・設備の管理	4
生徒が専門的な知識・技能を習得できた	4	安全管理	4
生徒の体力(技術)向上に繋がった	3	指導者間の指導方針の相違	3
顧問が専門的な指導法などを学ぶ機会となった	1	指導の際の教育的配慮	2
生徒の意欲が向上した	1	顧問と地域クラブ活動指導者の連携	1
生徒の平日の活動にも好影響があった	1	個人情報の管理の徹底	1
<b>Q12 生徒の生涯スポーツ活動環境の整備につながると感じるか</b>		<b>Q13 自身の負担軽減</b>	
※回答人数：6名	人	※回答人数：6名	人
非常に感じる	3	非常に感じる	4
少しは感じる	2	少しは感じる	2
あまり感じない	1		
<b>Q14 教材研究や生徒指導に充てる時間が増えたか</b>		<b>Q15 指導者との連携は十分か</b>	
※回答人数：6名	人	※回答人数：6名	人
少しは感じる	2	まあ図られている	3
全く感じない	2	十分に図られている	2
非常に感じる	1	全く図られていない	1
どちらとも言えない	1		
<b>Q16 指導者との連絡方法</b>		<b>Q21 指導者が重視すべきこと</b>	
※回答人数：6名（複数回答）	人	※回答人数：6名（複数回答）	人
電話	4	生徒一人ひとりの技能レベルにあった指導	5
ライン	3	多くの生徒が楽しめる指導の工夫	4
直接対面	2	大会・コンクール等での好成績	3
メール(携帯・パソコン)	1	生徒一人ひとりの心身の発達段階に応じた指導	3
コーディネーターを通して	1	練習内容の精選・工夫	3
活動日誌	1	生徒の自主性・主体性の尊重と育成	3
		チームワーク・協調性・共感	2
<b>Q17 指導者との連携について</b>		※回答人数：6名（複数回答）	
生徒の健康状態やコンディションについて情報交換している		2	
地域クラブ活動指導者と相談しながら年間・月間の計画を立てている		2	
顧問と日頃から積極的に意思の疎通を図り、個に応じた指導が実現できている		2	
生徒の健康状態やコンディションについて情報交換している		1	
校内の他の部とも活動の共有を図っている		1	
<b>Q22 地域移行で心配なこと</b>		※回答人数：6名（複数回答）	
		人	
		学校の方針との相違	
		5	
		安全管理	
		3	
		行き過ぎた指導	
		3	
		施設・設備管理	
		2	
		個人情報管理	
		2	
		生徒の活動意欲の低下	
		1	
		顧問と地域クラブ活動指導者の連携不足	
		1	
		保護者の経済的負担が増える	
		1	
		生徒の活動意欲の低下	
		1	

#### 地域指導者（栃木市モデル事業の地域指導者）

<b>Q7 部活動は将来どうあるべきか</b>		<b>Q8 実践してよかったと感じること</b>	
※回答人数：3名	人	※回答人数：3名（複数回答）	人
平日は学校、休日は地域で行うべき	2	生徒の技術向上が見られた	3
地域で行うべき	1	生徒の意欲向上が見られた	1
<b>Q9 課題は何か</b>		<b>Q10 指導で留意している点</b>	
※回答人数：3名	人	※回答人数：3名	人
顧問と地域クラブ活動指導者の連携	1	生徒一人ひとりの技能レベルにあった指導	2
指導の際の教育的配慮	1	多くの生徒が楽しめる指導の工夫	1
練習日が増えるとよい	1		
<b>Q11 顧問との連携は十分に図られているか</b>		<b>Q13 顧問との連携について</b>	
※回答人数：3名	人	※回答人数：3名（複数回答）	人
まあ図られている	2	活動状況や生徒の様子を指導ノートで共有している	3
あまり図られていない	1	顧問と相談しながら年間・月間の計画を立てている	1
		お互いの指導方法を尊重している	1

【アンケート調査結果（1月実施）：対象部活動顧問・地域指導者】

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（活動写真）



【学校・地域スポーツクラブ関係者合同研修会】

○確認事項等

- ・実証事業内容確認
- ・指導方針確認
- ・一貫した指導について（指導日誌の円滑な共有方法、連絡手段）
- ・学校施設使用時について（開錠・施錠方法、鍵の管理）

○検討内容・課題等

- ・緊急時の対応（対応マニュアルの作成）
- ・保護者との連絡手段の整理
- ・大会・練習試合の引率について



【保護者説明会】

○実証事業の内容説明

- スポーツクラブの指導方針について
- 質疑応答
- ・スポーツクラブとの連絡手段について
- ・大会・練習試合の引率について
- ・事業における今後の方向性について

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料 (活動写真)



【地域クラブ活動の様子①・女子卓球】



【地域クラブ活動の様子②・女子ハンドボール】



【【地域クラブ活動の様子③・陸上競技】



【【地域クラブ活動の様子④・女子バドミントン】

## 2. 実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



- ・地域移行に対する市としての考え方を整理するために、市・市教育委員会事務局関係課の担当者間での協議をタスクフォースにおいて進めた。
- ・校長及び部活動主任対象の実態把握を行うため、アンケート調査を実施したことで、地域移行における課題が明らかになった。
- ・課題：受け皿となるスポーツ団体の拡充や人材確保、学校とスポーツ団体の連携による指導の一貫性、生徒・保護者の理解、市としての体制整備
- ・検討会議の構成員の検討を行った。

- ・本会議の構成員：校長会代表、スポーツ団体代表、保護者代表、市職員代表
- ・実証事業実施に向けた検討とともに、本市としての部活動の地域移行の推進に関して、方針や計画、具体的な取組内容等を検討した。

- ・受け皿団体や指導者の選定については、市内4つの総合型地域スポーツクラブに事前訪問し、地域移行の概要説明で理解促進を図り、地域移行の受入と指導者確保の可否を相談した。可能な2クラブに受け皿と指導者確保をお願いした。
- ・実証事業実施校の選定については、受け皿団体の地域にある中学校に理解を求め、移行可能な部活動と指導者のマッチングを行った。

- ・新1年生が部活動を選択する時期を迎える前に、学校側が生徒に対して地域移行の説明を行った。また、保護者会においても、地域移行の理解を求める説明を行った。
- ・市及び受入団体による保護者説明会も開催し、地域移行の趣旨や活動内容等を説明した。団体・指導者との連絡手段と練習試合・大会等の対応について質問を受けたので、丁寧に返答した。
- ・事前に、顧問と指導者との打合せを数回実施し、指導方針や指導内容等のすり合わせを行うとともに、部活動に指導者が加わって指導したことで、一貫した指導体制の構築と生徒の安心感につなげた。

- ・新チームになる9月から事業を開始した。
- ・2校4部活の休日の地域クラブ活動に、実施団体所属の地域指導者を派遣した。
- ・専門性の高い指導者により、生徒の技術向上につながった。
- ・指導方針の確認や活動状況の共有等定期的なすり合わせを適切に行った活動は、平日と休日の一貫した指導体制とともに、生徒・保護者との信頼関係の構築につながったが、活動によって格差が生じた。
- ・活動によっては、指導者の生徒理解にも課題が生じたので、次年度は、研修会を設けたい。
- ・市としての方向性と推進の具体的な取組等を示す基本方針を策定した。(R6.3月)

令和6年度

- ・7校11部活に拡充する。

令和7年度以降

- ・13校26部活の地域移行に拡充するとともに、参加対象生徒を学校の生徒から地域の生徒に広げ、生徒の多様なニーズに対応していく。

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

→ 地域移行を開始する時期（9月）を示す。  
※ 新チームの活動開始時期

### (基本目標)

○生徒が主体的に多様なスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境づくりに取り組む。

### (活動目標)

**短期目標**  
○令和7(2025)年度までに、市の全ての公立中学校の休日の運動部活動を2つ以上、地域クラブ活動を目指す。

**長期目標**  
○令和10(2028)年度までに、市の全ての公立中学校の休日の運動・文化部活動を全て、地域クラブ活動にすることを旨とする。

